

第五七回BCS賞表彰式を挙



冒頭挨拶する中村会長

日建連は、昨年十一月二十四日、東京・千代田区丸の内のパレスホテル東京において、第五七回BCS賞表彰式を開催し、「京都国立博物館 平成知新館」など一七件の建築作品を表彰した。

最初に、中村満義会長が、「いずれの作品も建築主の深い想いと設計者・施工者の創造力・技術力が見事に結実した作品ばかりであり、受賞された皆様のご努力に対し深く敬意を表するとともに、今後益々のご発展を祈念する」と挨拶し、続いて第五七回選考委員を代表して、五十嵐太郎東北大学大学院教授が審査報告を述べた。このあと、今回の受賞作品全一七件を映像により紹介し、引き続き中村会長が各受賞作品の建築主に表彰状を手交した。

次いで、来賓を代表して国土交通省の伊藤明子大臣官房審議官から石井啓一国土交通大臣の祝辞の代読があり、日本建築学会の真木康守専務理事から祝辞をいただいた。

最後に、受賞者を代表して佐々木丞平京都国立博物館館長から「このたび受賞した『京都国立博物館 平成知新館』は、伝統のなかに未来への思考がしっかりと詰まっている建物であり、古都・京都に新しい息吹を吹き込むものである。博物館の仕事は、過去の伝統、古きもののみを見ていると先の見えない、暗い世界を歩むことになり、また、未来の新しいことのみを考え、過去や伝統に目を向けなければ、それは極めて危うい世界に進むことになる。この素晴らしい建物の中で、伝統と未来を同時に背負いつつ、日々仕事をしていかなければならないが、そのホームグラウンドが平成知新館であることの幸せに感謝し、皆様のご期待に背くことなく日々務めて参りたい」との挨拶をいただいた。

表彰式終了後、引き続き懇親祝賀会を行い、約四五〇名近くの多数のご出席をいただき、盛況裡に終了した。

第三一回新春懇談会を開催

日建連は一月二十六日、東京・大手町の経団連会館において新春懇談会を開催した。有識者や報道関係者と日建連幹部が懇親を深めるため毎年開催している新春懇談会も、今年で第三一回目となる。

冒頭、中村満義会長が、「社会保険や建設キャリアアップシステムなど、『担い手の確保』と『生産性の向上』に向けた施策の推進に加えて、現場の四週八休確保など、さらなる処遇改善の取組みを業界が一丸となって積極的に進めていく」と決意を述べた。

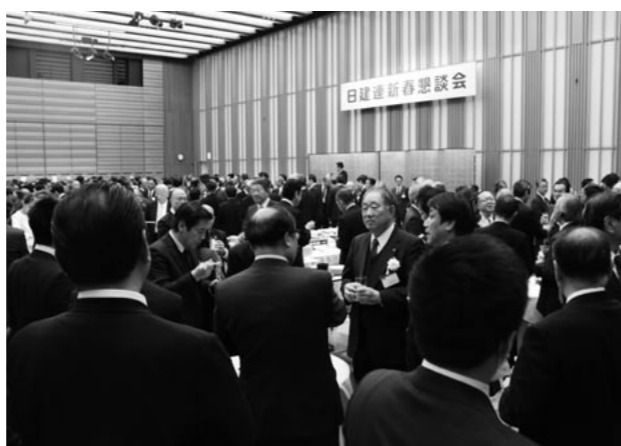
続いて、東京オリンピック・パラリンピック関連施設の整備について触れ、「若者にとって『夢のある仕事』となるオリンピック関連の工事が円滑に進むよう、関係の皆様のご理解とご尽力をお願い申し上げます」と挨拶した。

次いで宮下正裕副会長・広報委員長が、「有識者・報道関係者の皆様と日建連幹部との交流を図り、建設業に対する理解を深めていただくとともに、忌憚らないご意見を賜り、今後の日建連の活動に活かしていきたい」と述べた。さらに、会場に設置された展示パネルについて

て、「担い手確保のための処遇改善」に向けた最重要課題六項目の目標と日建連の活動を紹介している。建設業の未来を担う若者の入職促進に向けて、休日の拡大をはじめとする雇用環境の改善を進めていく」と日建連が取り組んでいる様々な活動を紹介した後、乾杯の発声を行った。

会場には、そのほかにも「生産性向上推進要綱の骨子」や「建設キャリアアップシステム」の概要と効果をわかりやすく図式化したパネルの展示があり、「担い手の確保・育成」と「生産性の向上」を両輪とした日建連の様々な取組みが紹介された。

「けんせつ小町の活躍推進に向けた取組み」のパネル展示では、今年度のけんせつ小町活躍現場見学会の様子が掲示され、懇談会の出席者は女子小中学生が現場の朝礼体験に参加している風景や働くけんせつ小町の様子に見入っていた。当日は五〇〇名以上の有識者や新聞・雑誌などの報道関係者、日建連会員が出席した。女性出席者も多数見られ、華やかで盛況な新春懇談会となった。



賑わいを見せる会場内



展示パネルを熱心に見つめる出席者たち